

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月9日
【四半期会計期間】	第31期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	株式会社雪国まいたけ
【英訳名】	YUKIGUNI MAITAKE CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大平 喜 信
【本店の所在の場所】	新潟県南魚沼市余川89番地
【電話番号】	025(778)0111(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役兼執行役員管理本部長 吉 川 博 志
【最寄りの連絡場所】	新潟県南魚沼市余川89番地
【電話番号】	025(778)0111(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役兼執行役員管理本部長 吉 川 博 志
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第30期 第1四半期 連結累計期間	第31期 第1四半期 連結累計期間	第30期
会計期間		自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高	(百万円)	5,210	5,472	26,509
経常損失()	(百万円)	1,416	955	1,384
四半期(当期)純損失()	(百万円)	851	614	1,959
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	820	504	1,783
純資産額	(百万円)	3,213	1,737	2,243
総資産額	(百万円)	40,570	38,962	39,495
1株当たり四半期(当期)純損失金額()	(円)	23.91	17.24	55.00
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	7.8	4.3	5.5
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	577	715	974
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	1,010	35	2,003
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	1,726	328	1,200
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	(百万円)	1,304	970	1,379

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、四半期(当期)純損失を計上しているため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新たな経済・金融政策への期待から円安や株高が進行し、個人消費や企業業績の一部に持ち直しの動きが見られたものの、実体経済の改善には至っておらず、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは、平成25年2月8日に発表いたしました中期経営計画の初年度にあたり、まいたけ・えりんぎ・ぶなしめじの茸3品の品質改善と安定供給を最重点課題として取り組んでまいりました。また、商品構成の見直し、原材料の調達コストの削減、生産効率の向上、物流費の削減を中心とした経営体質の改善に取り組んでおります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は54億72百万円（前年同四半期比5.0%増）、営業損失は8億8百万円（前年同四半期は12億7百万円の損失）、経常損失は9億55百万円（前年同四半期は14億16百万円の損失）、四半期純損失は6億14百万円（前年同四半期は8億51百万円の損失）となりました。

セグメントの状況は次のとおりであります。

セグメント		連結売上高 (百万円)	前年同四半期比 (%)
茸	まいたけ	1,655	107.3
	えりんぎ	680	96.0
	ぶなしめじ	1,161	116.6
	その他生茸	153	93.7
	生茸計	3,649	107.0
	加工食品	179	128.4
	茸計	3,829	107.9
	もやし・カット野菜	1,102	93.3
	その他食品	369	133.4
	その他	171	84.9
その他計	541	113.0	
合計		5,472	105.0

茸

国内の生茸の販売は、個人消費の低迷により、販売環境は厳しい環境の中で推移しておりますが、昨年の大幅な販売単価下落から単価の持ち直し傾向が見られました。また、まいたけは機能性面（ダイエット効果）のマスメディア報道により需要が喚起され、ぶなしめじにおいても今年2月に発売いたしました「雪国しめじ恵み」の販売が好調に推移いたしました。

以上により、茸の売上高は38億29百万円（前年同四半期比7.9%増）となりました。

もやし・カット野菜

もやし・カット野菜の販売は、春先の野菜豊作による野菜単価の下落影響により、販売量は伸び悩み、もやし・カット野菜の売上高は11億2百万円（前年同四半期比6.7%減）となりました。

その他

その他食品において納豆の受託生産拡大等もあり、その他計の売上高は5億41百万円（前年同四半期比13.0%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ5億32百万円減少し、389億62百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて3億45百万円減少し、83億83百万円となりました。これは主に、現金及び預金が5億30百万円、受取手形及び売掛金が3億68百万円減少し、繰延税金資産が3億69百万円増加したこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて1億83百万円減少し、305億67百万円となりました。これは主に、建物及び構築物が1億15百万円減少したこと等によるものであります。

負債の部では、流動負債が前連結会計年度末に比べて3億14百万円増加し、202億12百万円となりました。これは主に、短期借入金が8億19百万円増加し、支払手形及び買掛金が2億41百万円、流動負債（その他）に含まれる未払金が1億96百万円減少したこと等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて3億41百万円減少し、170億13百万円となりました。これは主に、社債が2億87百万円、固定負債（その他）に含まれる長期未払金が1億9百万円減少したこと等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比べて5億6百万円減少し、17億37百万円となりました。これは主に、利益剰余金が6億14百万円減少したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年同四半期末と比較して3億34百万円減少し、9億70百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間における営業活動による資金の支出は7億15百万円（前年同四半期比23.8%増）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失9億57百万円の計上、減価償却費及びその他の償却費5億30百万円、売上債権の減少額3億72百万円、仕入債務の減少額3億65百万円等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間における投資活動による資金の支出は35百万円（前年同四半期比96.5%減）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1億89百万円、その他に含まれる定期預金の払戻による収入1億65百万円等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間における財務活動による資金の収入は3億28百万円（前年同四半期比81.0%減）となりました。これは主に、短期借入金の純増加額5億50百万円、長期借入れによる収入16億円、長期借入金の返済による支出11億90百万円、社債の償還による支出4億12百万円等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の金額は38百万円であります。なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	120,000,000
計	120,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	38,890,375	38,890,375	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数100株
計	38,890,375	38,890,375	-	-

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成25年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	-	38,890,375	-	1,605	-	2,262

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,259,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 35,463,200	354,632	-
単元未満株式	普通株式 167,775	-	-
発行済株式総数	38,890,375	-	-
総株主の議決権	-	354,632	-

(注) 自己株式3,259,493株は「完全議決権株式(自己株式等)」の欄に3,259,400株、「単元未満株式」の欄に93株含まれております。

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社 雪国まいたけ	新潟県南魚沼市余川89番地	3,259,400	-	3,259,400	8.38
計	-	3,259,400	-	3,259,400	8.38

(注) 平成25年6月30日現在の自己株式数は3,259,665株であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人ナカチによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,254	1,723
受取手形及び売掛金	² 2,256	² 1,887
商品及び製品	1,169	1,127
仕掛品	1,650	1,756
原材料及び貯蔵品	704	691
繰延税金資産	103	473
その他	589	723
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	8,728	8,383
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	12,504	12,388
土地	7,929	7,932
その他(純額)	7,464	7,432
有形固定資産合計	27,898	27,754
無形固定資産	465	474
投資その他の資産		
その他	2,437	2,388
貸倒引当金	50	50
投資その他の資産合計	2,387	2,338
固定資産合計	30,751	30,567
繰延資産	15	11
資産合計	39,495	38,962
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	² 1,171	930
短期借入金	13,599	14,418
未払法人税等	121	49
引当金	11	153
その他	² 4,993	² 4,660
流動負債合計	19,897	20,212
固定負債		
社債	2,115	1,828
長期借入金	13,494	13,664
退職給付引当金	82	59
その他	1,662	1,460
固定負債合計	17,354	17,013
負債合計	37,252	37,225

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,605	1,605
資本剰余金	2,262	2,262
利益剰余金	138	752
自己株式	1,514	1,514
株主資本合計	2,214	1,600
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4	2
繰延ヘッジ損益	0	19
為替換算調整勘定	34	63
その他の包括利益累計額合計	29	80
新株予約権	56	53
少数株主持分	1	2
純資産合計	2,243	1,737
負債純資産合計	39,495	38,962

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	5,210	5,472
売上原価	4,718	4,572
売上総利益	492	900
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び販売促進費	149	121
運賃	604	617
報酬及び給料手当	359	323
賞与引当金繰入額	6	22
役員退職慰労引当金繰入額	7	-
その他	572	624
販売費及び一般管理費合計	1,699	1,708
営業損失()	1,207	808
営業外収益		
受取利息	0	0
デリバティブ収益	4	38
固定資産賃貸料	19	25
為替差益	-	57
その他	16	40
営業外収益合計	40	163
営業外費用		
支払利息	165	173
その他	84	137
営業外費用合計	250	311
経常損失()	1,416	955
特別利益		
新株予約権戻入益	0	2
固定資産売却益	0	-
特別利益合計	0	2
特別損失		
固定資産除却損	2	3
固定資産売却損	0	0
特別損失合計	2	4
税金等調整前四半期純損失()	1,419	957
法人税等	567	343
少数株主損益調整前四半期純損失()	851	614
少数株主利益	0	0
四半期純損失()	851	614

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	851	614
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	9	7
繰延ヘッジ損益	50	20
為替換算調整勘定	90	97
その他の包括利益合計	30	109
四半期包括利益	820	504
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	821	503
少数株主に係る四半期包括利益	0	0

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	1,419	957
減価償却費及びその他の償却費	442	530
賞与引当金の増減額(は減少)	147	142
支払利息	165	173
売上債権の増減額(は増加)	811	372
たな卸資産の増減額(は増加)	158	37
仕入債務の増減額(は減少)	25	365
その他	30	348
小計	361	489
利息の支払額	153	160
法人税等の支払額	34	66
その他の支出	28	0
営業活動によるキャッシュ・フロー	577	715
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	988	189
その他	22	154
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,010	35
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	3,515	550
長期借入れによる収入	40	1,600
長期借入金の返済による支出	1,148	1,190
社債の償還による支出	407	412
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	91	0
その他	180	219
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,726	328
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	13
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	138	409
現金及び現金同等物の期首残高	1,165	1,379
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,304	970

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」第19項の規定により、「中間財務諸表等における税効果会計に関する実務指針」第12項（法定実効税率を使用する方法）に準じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
成都雪国高榕生物科技有限公司	684百万円	442百万円

2 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形	0百万円	1百万円
支払手形	156	-
設備関係支払手形（流動負債その他）	33	50

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年6月30日）及び当第1四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年6月30日）

当社グループの売上高は、連結会計年度の上期と下期とで著しい相違があります。その状況は、当社グループの主要製品であります生まいたけ等茸類の商品性から、9月～12月が最需要期、1月～3月が需要期、4月～8月が不需要期となっているためであります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
現金及び預金勘定	1,338百万円	1,723百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	34	752
現金及び現金同等物	1,304	970

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	133	10	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

(注) 上記配当金の総額については、配当辞退がありました株主を除く株主を対象としております。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の
末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の
末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額
	茸	もやし・ カット野 菜	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,550	1,181	4,731	479	5,210	-	5,210
セグメント間の内部売上高又は振替高	4	6	10	334	345	345	-
計	3,554	1,187	4,741	814	5,556	345	5,210
セグメント利益又は損失()	1,195	34	1,161	157	1,003	203	1,207

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その他食品及び石油類販売等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 203百万円は、セグメント間取引消去6百万円及び主にセグメントに帰属しない全社費用(一般管理費) 210百万円であります。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額
	茸	もやし・ カット野 菜	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,829	1,102	4,931	541	5,472	-	5,472
セグメント間の内部売上高又は振替高	2	26	28	248	277	277	-
計	3,831	1,128	4,960	789	5,749	277	5,472
セグメント利益又は損失()	630	39	591	2	594	214	808

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その他食品及び石油類販売等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 214百万円は、セグメント間取引消去12百万円及び主にセグメントに帰属しない全社費用(一般管理費) 226百万円であります。
3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失()と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	23円91銭	17円24銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額() (百万円)	851	614
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額() (百万円)	851	614
普通株式の期中平均株式数 (千株)	35,630	35,630

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失を計上しているため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月 9日

株式会社 雪国まいたけ
取締役会 御中

監査法人 ナ カ チ

代表社員	公認会計士	安 藤 算 浩 印
業務執行社員		
業務執行社員	公認会計士	駒 崎 泰 生 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社雪国まいたけの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社雪国まいたけ及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲には、XBRLデータ自体は含まれていません。